

# 東青梅地区 今！みらい・ささえ愛

～第2層協議体の活動～

東青梅地区の活動は、新型コロナウイルスの影響を受け、しばらく中止しておりましたが、夏ごろから活動再開。協議体メンバーからは不安を抱えながらも、「月1度はみんなで会って話をしよう！」という声があがり、感染症防止対策を取りながら会を進めています。

毎年9月1日、防災の日の前後に各地で防災訓練を行うところが多いようです。発災時には「お互い様の助け合い活動」が非常に重要になりますが、これは普段から顔の見える関係があってこそ成せる互助活動。

「防災に関する地域の取り組み」などについて情報を共有し、今後は防災をきっかけとして、「どのように地域活動に結び付けていくか」を検討していく予定です。

おそきの学校と地域を考える会副会長・事務局長の若林良弘さんをお招きし、小曾木地区で取り組まれている「災害時避難安全カード」について理解を深めました。

「災害時避難安全カード」は2019年度の青梅市市民提案協働事業にて実施された事業であり、自治会を通じて小曾木地区全世帯に配布されたそうです。

このような防災活動をきっかけに、地域からは「自分たちのことを気にかけてもらっていると感じた」という声も聞かれ、心も繋がる地域づくりを築いているそうです。



第8支会では「地区防災訓練」として令和2年11月29日、玄関先などに「無事旗」を掲げる訓練を行いました。その中の「根ヶ布2丁目多摩団地自治会の活動取り組み」の事例を報告。

## 【報告事項】

多摩団地自治会では、地区の住民全員に対し防災アンケートを事前に実施。  
～そこから見えた結果と考察（抜粋）

- 避難先として自宅を提供いただけると回答してくれた方は約2割もいた
- 避難時、援助ができると回答くださった方は3割弱

また、今回訓練を行うにあたり、自治会員は「無事旗」を、地域住民は「無事ですカード」を掲げたそうです。今後は、多摩団地として避難時に援助が必要な人と援助できる人のマッチングを検討したり、「防災カード」を地域の防災士さんの協力もいただきながら活用していく予定だそうです。

自治会員だけでなく地域住民からも「気に掛けてくれてありがとう」という声がきかれ、直接顔を見ながら声をかける大切さを改めて感じる事ができたそうです。



防災ボランティアの発想から、地域のボランティア活動に話が展開。  
中郷（梅郷3・4・5丁目連自治会）で行っている「中郷ちょこっとお助けボランティアの会」など「地域の支えあい活動」についても今後検討していきます！